

自己評価票

2丁目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	スタッフ全員で、実践できる理念を話し合い決めた。住み慣れた地域でその人らしい生活を支援できることを念頭に置きみんなで考えた。	○	日々のサービスの中で理念が反映できるよう地域特有の生活習慣やその人らしさ大切にし入居者を支援していきたい。また、ユニット会議や学習会の場を通じてスタッフが確認をし合える場も作っていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	出会えた縁を大切に、入居者・スタッフ・地域の方々が笑顔で安心して生活していけるよう、スタッフ各人は理念意識し日々の仕事に臨むよう努力をしている。	○	家族になれるよう、その人らしく生活をおくることができるよう今後もスタッフ皆で協力し取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	理念を玄関に掲げ、目のつきやすい場所に置いている。7/1理念を記載したたよりを発行した。	○	行事やたよりの発行を通じて地域及び家族に方々へ折に触れ理念に触れていきたいと思う。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	日頃より、入居者とともに周辺の散策を行い、近隣の方々と会った時には挨拶をし知ってもらうようにしている。また、誰でも気軽にホームを訪ねられるよう見学等は自由に開放をしている。	○	施設行事を通じて地域の方々が気軽にホームに立ち寄ることができるよう今後も努力をしていきたい。また、日常の中では今まで通り、散歩等を通じて「えにしの里」を知ってもらえよう、気軽に声をかけ合えるような関係を目指していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で取り組み改善事項は皆で話し合いたいと考えている。	○ 改善事項をスタッフ全員が共有するとともにそれに向けた取り組み（その人らしく、安心して生活できているか、当たり前前の生活が送れているか）をしていきたい。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在は管理者のみの参加であるが、内容は会議録にて職員は確認をしている。内容については主にホームからの報告をもとに町会長等からの意見等を頂いている。	○ スタッフの参加も今後は考える。また、もっと双方向的な会議となるよう進め方を工夫していきたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に管理者が行っているが、市は相談事等を積極的に聞いてくれている。また、場合によっては困難ケース受け入れの際、ケース会議へも参加をし改善策と一緒に考えてくれている。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフ個人で学習をしている者もいるが、ほとんどの場合は管理者が必要時対応をしている。職員全員が十分に理解しているとはいえない。	○ 学習する機会を設け、概要を理解できるようにしたい。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	これは大丈夫だろうと思われることでも認知症の方には虐待になることもあると思われるので、本人のリズムに合わせ無理なく生活を送れるよう気をつけている。また、申し送りやユニット会議時には事例を通じ話し合うようにしている。	○ 職員に虐待の意識がなくても、入居者にとっては虐待になっていることがあると思われるので（言葉や態度等）日々、職員で学び対応をしていきたい。また、高齢者虐待防止法について学ぶ機会を作りたいと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約時の対応を行っている。その際には料金や起こり得るリスク、ホームでできること・できないこと等について説明を行っているが、時間の経過とともに忘れていく方もいる	○	スタッフも契約書や重要事項説明書の内容について再確認をし、概要を把握するようにしたい。また、家族に対しては、その時々確認をとり理解を得て頂けるよう努力をしていきたい。
11	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。また、入居者の言葉や態度からその人の思いを察する努力をし、その時々利用者の不安や意見等は申し送りやユニット会議時に話し合うようにしている。	○	利用者一人一人の思いに気づけるよう、その人の立場に立った介護者になれることを目指したい。また、意見箱が気軽に利用できるような環境作りもしていきたいと思う。
12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	病気等の緊急な連絡や報告はもとより、家族の面会時には暮らしぶりや体調、必要物品、金銭についても報告を行っている。面会に来れない方には月初めに手紙で報告をしている。	○	家族が不安を感じないよう介護に努め、常に状態を報告できるようにしたい。また、家族との会話の中で意見等を感じ取れるのしたい。
13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から頂いた苦情に対しては日々の申し送りやユニット会議において速やかに話し合い対応をするようにしている。しかし、家族によっては苦情は言いにくいことでもあるため、言葉の中から思いを汲み取るよう努力もしている。	○	日頃から入居者・家族との良い関係作りをし、何でも話し合える雰囲気作りを心掛けていく。
14	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施されているユニット会議のほか、その都度職員の意見を聞く機会が設けられている。しかし、不満や苦情は言い難い部分も多いので把握しきれない可能性はある。	○	気軽に提案等をできる環境作りを考えていきたい。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に応じローテーションを組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	基本的には各ユニット職員を固定化し、顔馴染みの関係を大切にしているが、やむを得ず配置換えを行った場合は、特に入居者への説明は行っておらず、それによるダメージはあると思われる。	○	不安にさせない程度の説明は必要と思う。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
17	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	学習委員会など、各員会の設置をし、職員の質向上、育成に努めている。	○	施設内のみではなく施設外研修も職員のレベルに合わせ参加を促していきたい。
18	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姉妹施設への研修参加はある。（参加は個人の意思に任せている）	○	今後も学習会を通じての交流を続けていきたい。また、他施設との交換実習を考えていきたい。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	特別配慮は行っていない。	○	対人ストレス、仕事上でのストレスを緩和させる工夫をしてほしい。また、休憩室がないのでそれに代わる環境の工夫。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年1回健康診断を実施している。就業規則は作成済みであるが皆で閲覧できる場所がない。	○	就業規則を閲覧できるようにする。また、職員が向上心を持って仕事に臨むことができるよう人事考課を取り入れる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者は相談受付時には、困っていること、どうしたいのか等を聞くようにし、それらの情報はスタッフにも伝え、入居後はスタッフが利用者より話しを聞き、不安を少しでも抱かないよう配慮をしている。	○  お互いを知り、信頼関係が築けるよう小さな事からコツコツとやっていきたい。
22	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所の入居優先ではなく本人と家族の納得できるサービスが受けれるよう他のサービスも念頭に置き対応している。その際には、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターとも相談をすることがある。	
23	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が施設を見学することから始めてもらい、事前の調査も自宅に訪問し顔馴染みの関係が少しでもできるよう心がけている。	○  直ぐに顔馴染みになれない部分もあるため、ゆっくりと時間をかけていきたい。
、			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一方的な同情の介護ではなく一緒に共感しあい、支え合いながら生活を送れるよう心がけている。また、本人の立場に立った介護となるよう気を付けている。	○  入居者にとって職員は生活の一部であるため自由を尊重しながら、どう接し生活を支援していくかをもっと考えていきたい。また、ともに生活していることを前提に入居者を支えていくための協力者であることを再確認したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の希望を聞くとともに、時には家族に提案をし入居者を一緒に支えていけるよう日頃から話し合いを大切にしている。	○	行事等に積極的に参加をして頂き、日常の状態を観て頂く場を増やしていきたい。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の日々の生活状況を家族に伝え、家族も入居者の生活を知り、そのことについて話題にもなり良い関係作りができるよう努力をしている。	○	家族との外泊や外出、行事への参加を呼びかけ関わりが途切れないように働きかけていきたい。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域への外出や買い物等を積極的に行うようにしている。	○	気軽に自宅に立ち寄れるよう、家族とも関係を作り、馴染みの人や場所との関係性が途切れないようにしたい。
28	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について情報を職員は共有できるような連携を図っている。また、利用者は心身の状態や気分、感情で日々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。	○	職員間の連携を継続していきたい。
29	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	今の現状ではその後の関わりはない。	○	行事等への招待や参加の声かけ等をし、つきあいを大切にしたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から声を掛け、把握に努めている。言葉や表情などから真意を察するようにしている。また、必要に応じて本人をよく知っている家族等からも思いをきくようにしている。	○	自宅で生活して生きてきた習慣等を把握し、入居者本人が自然なかたちで、思いや希望を表現し暮らしていけるよう支援する。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の自宅を訪問し、本人・家族より話を聞きだすようにしている。また、本人の語りなどからも利用後は少しずつ把握するようにしている。	○	これまでの生活歴、個性等の中から、入居者本人の得意なことを見つけ出しホームに居場所を見つけ出せるよう、また入居者が信頼して過去の話ができるような雰囲気を作り上げていきたい。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	普段の生活リズムと変化がないかなど、精神的、身体的の両方観察し生活全体を見守り、記録等をとりながら把握するよう努めている。またできないことよりも、できることに注目するようにしている。		先回りして全てやってあげるのではなく、待つ姿勢を持ち、出来ることを引き出すことを心掛けたい。また、週単位・月単位の生活リズムをつかみたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のユニット会議や日々の申し送りで情報を収集するようにしている。	○	普通の暮らしが普通にできるような支援・計画になるようにする。また、今本人にとってどんなケアが必要か見極めてケース記録を記入し、それを介護計画につなげていきたい。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時には期間前でも見直すよう心がけているが必ずしも、そのようにはいかず、ケアが先行している時もある。	○	ユニット会議や日々の記録を利用しモニタリングにいかしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し食事・水分量・排泄状況等身体状況及び日々の暮らしの様子等を記録している。また、いつでも職員が確認できるようにしている。	○	行動や言動面の記録が不十分なため、それらを記録することの重要性を再確認したい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
36	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診援助の他に緊急時には柔軟に対応している。受診対応地区外でも状況確認のため、家族に同行する場合がある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
37	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防訓練前には必ず消防署へ連絡を行っている。また図書館等は本人の希望があれば利用し、公民館は企画があれば利用している。	○	地域の資源を知ることから始めたい。
38	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望に応じて、訪問理容サービスを受けている。	○	地域の行事等に積極的に参加をしていきたい。
39	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて地域包括支援センターと協力して利用者にとって必要な制度等に結びつくようにしている。(管理者が行っている)		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医を受診している。また、受診や通院時は基本的には地区内は職員が対応しているが状況に応じ家族へも同行を依頼することがある。	○	本人、家族、職員が連携し適切な医療が受けられるよう今後も頑張っていきたいと思っている。
41	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関ではないが、町内に精神科医師がおり気軽に相談を受け付けてくれる。		
42	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。	○	今後も入居者の体調変化を観察・報告し看護師と連携を図っていきたい。
43	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には管理者・看護師が病院に見舞い、その中で病棟から情報を得るようにしている。また退院前の医師からの説明時は職員も同席したい旨を家族に了解を得て、病棟にも伝えている。		
44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・看取りの指針を定めているが、看取り介護は、まだ行ったことはない。	○	本人家族と何度も話し合い、また医師の協力体制等を確認していきながら、関係者皆で話し合っていきたい。
45	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事例はまだない。	○	本人の気持ちを大切にし、家族・医師らと話し合い安心して最期を迎えられるように整備していきたいと思っている。その中では、ホームでできること・できないこと等も十分に伝え、判断して頂きたいと思っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	自宅へ戻られる方へは担当ケアマネージャーと連絡を取り、ホームでの様子を報告をしている。 (管理者が主に行っている)	○	その人らしく生活が継続できるよう支援していきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
47	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前であからさまに介護したり、誘導の声掛けをして、本人を傷つけてしまわないよう、目立たず、さりげない言葉掛けや対応に配慮するよう心がけているが慣れ合いによる、言葉遣いの乱れが出てきているようである。	○	尊敬の意を持って接することを忘れずにケアに励む。職業倫理を持って個人情報の取り扱いや接遇に気をつける。
48	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員の決めたことを押し付けないよう、利用者が一人で決められるよう話を持ちかけているが、職員の都合に合わせている感は否めない。	○	自分で決められるよう迷いそうなものは、選択肢をつくるなど、一人で決められるよう話し方等を工夫する。
49	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩等、一人一人の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応するよう心掛けている。	○	入居者の一人ひとりの一日の過ごし方に柔軟に対応し希望に添えるよう努めていきたい。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
50	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴後の髪の毛のセットやおしゃれ着等入居者が生き生きとなれるよう心掛けている。見守りや介助が必要な方へは一緒に考え、なるべく気持ちに沿ったものになるよう気をつけている。	○	日頃より女性は女性らしく、男性は男性らしく、その人に合ったオシャレを楽しんでもらえるようにしたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の入居者の状態にもよるが、調理・盛り付け・片付けを利用者とともに可能な範囲で一緒に行っている。その中で女性の方には主婦としての気持ちを回想できるようなるべく家事に参加してもらうよう働きかけも行っている。	○	男性入居者への生活参加の仕方を今後工夫していきたい。また、職員においてはやってあげてを仕事として捉えず、ともに生活している気持ちを大切にしていきたいと思っている。
52	○本人の嗜好の支援  本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶の際は本人に希望のものを決めて頂くようしている。また、献立については何が食べたいか尋ね、献立に取り入れるよう努めている。体調や持病のある方もいるができるだけ嗜好を楽しめる環境にしたいと思っている。	○	買物の時間を活用しもっと積極的に入居者が嗜好の表現をだせる環境作りをしたい。
53	○気持ちよい排泄の支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を用い、排泄パターンの把握に努め、なるべくトイレでの排泄を目指し、できるだけ紙おむつ類の使用を避け本人が気持ちよく過ごせるように支援している。また、失敗しても辱めを受けないよう配慮した対応に心掛けている。	○	安易な紙おむつの使用は避け、尊意をもって対応していきたい。
54	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間入浴は行っていないが、入浴日を決めておらず、本人の意思を尊重しながら対応するよう心掛けているが、なかなかそのように、いかないことの方が多思うように思う。しかし、その中でも、ただ単に入浴を人数をこなすだけのものにならないよう気をつけて行っている。	○	体調管理に気をつけながら楽しい入浴になるように、支援していきたい。また職員で連携しながら入浴時間等も考慮していきたい。
55	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促すようにし、生活リズムを整えるよう配慮している。また一人一人への体調へも考慮し、ゆっくりと休めるように心掛けている。	○	口調や語調は相手を傷つけたり、不安にさせるため相手に思いやりを持ち安心感を抱けるような態度や言葉遣いに今後も気をつけていきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の力を発揮してもらえよう、利用者が出来そうな仕事はお願いし、感謝の気持ちを伝えるようにしている。	○	生活歴を考慮しながら役割を持って、力を発揮出来るよう援助していきたい。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の小遣い銭は管理可能な方には持って頂いている。	○	本人の能力に応じ、小遣い銭を管理して頂き、買い物ときには自分で支払えるよう支援し、社会性の維持につなげていきたいと思う。
58	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の希望や気分に応じて、心身の活性化につながるよう、ドライブや買い物・散歩等に可能な範囲で対応している。	○	一人一人、個人個人に合わせ柔軟に対応できるようスタッフが連携を図り、対応していきたい。
59	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠方へは対応できずにいるが、近場はなるべく対応できるようにしたいと思っている。	○	家族の協力も得ながら勧めていければと思っている。
60	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話はいつでも使えるようにしている。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は20：00としているが、以外の時間でも申し出を受け対応している。気軽に来やすい雰囲気になるよう、明るく、笑顔で迎えるようにしている。	○	来訪者と入居者が落ち着いて、ゆっくりとお茶を楽しめる環境を作っていきたい。(場所を作りたい)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
62	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	紐で縛ったり、玄関に鍵をかけることはないが、職員が拘束に抵触していると気づいていないことが時にある。	○	身体拘束についての学習会を開き、日々のケアを検証する機会を設けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に鍵はかけていない。利用者が外出しそうな様子を察知したら、さりげなく声をかけるようにし、安全面に配慮している。場合によっては一緒についていくようにしている。	○	見守り＝監視にならないよう気をつけていきたい。
64	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホールに人がいるよう、スタッフ同士場を離れる時は声をかけ合うようにしている。夜間は1～2時間毎に巡回をし以外の時間でも、物音を聞きすぐに対応できるようにしている。	○	見守りが息苦しくならないように、さりげない声掛けに努め、全職員と連携を図りながら安全に暮らせるようにしていきたい。
65	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	身体に害のあるものは事業所で保管している。 (主に刃物)	○	利用者の状態に照らし合わせながら、厳重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使うときに注意が必要なものに分け管理をしている。
66	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットと報告書を作成している。万が一事故が発生した場合は事故報告書を速やかに作成し、家族や市へ報告を行っている。また、報告書は職員がいつでも見れる場所に保管されている。	○	今後も事故防止委員会を中心に事故を未然に防げるようにしていきたい。
67	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	H21/11 開設前に救命救急の講習を受けた。緊急対応についてはマニュアルを作成し職員の目のつきやすい場所に置いている。	○	看護師による救急時の対応を年1回以上教えてもらう機会を設けるとともに、緊急時の対応については、折に触れ周知を図っていきたい。
68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行い、消化器の使い方や通報の仕方を学習している。年2回以上最低行うようにしている。	○	地域住民の協力を得られるよう、運営推進会議の場を活用し協力をお願いしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い  一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	力の発揮や抑制のない暮らしが入居者の表情を明るくし、身体状況の低下防止につながることを伝えていくようにしている。また、入居者の起こる得るリスクを予測しそれを家族に伝達するようにしている。	○	スタッフ皆が起こり得るリスクについて考え、それをユニット会議に持ち寄り、話し合えるようにし、それを家族に伝達できるようになりたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
70	○体調変化の早期発見と対応  一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	食欲や顔色、様子等の変化が見られたらバウケックを行い、変化時には記録をつけている。状況により看護師に相談し医療機関への受診をしている。	○	スタッフ皆が異変に気づけるよう申し送りやユニット会議時に見方や対応について確認をしていく。その中でスタッフの声掛け・連携を大切にしていきたい。
71	○服薬支援  職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方用紙を個人のファイルに綴り、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には本人に手渡し、きちんと服用できているか確認をしている。		
72	○便秘の予防と対応  職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分や運動を奨励している。また無理のない腹部マッサージを行い自然に便がでれるよう努力しているが上手くいかず、下剤の与薬で調整をしている。	○	今後も食事の工夫や散歩等で身体を動かす機会を作り、自然排便につながるようにしていきたい。
73	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、利用者の力に応じたスタッフが見守ったり、手伝っている。	○	今後も継続していきたい。
74	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況をケース記録に記録しスタッフは情報を共有している。スタッフの中に栄養士がおり、おおよその栄養量等点検してくれている。	○	今後もスタッフ間で情報を共有し過不足等を報告し合い、対応をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症についてのマニュアルがある。また早期発見、早期対応につながるよう情報を書面で伝達したり、学習会を行っている。	○	継続して行っていくとともに、職員が媒介者とならないよう日頃の手洗い、清潔・不潔を区別することも続けていきたい。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾は都度漂白剤で消毒をし、食器は熱湯消毒をしている。食材については購入日を記入し気をつけている。肉・魚は毎日のように配達をしている。	○	冷蔵庫やレンジ、流し下の衛生面へも気をつけていきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関マットは亀の絵が描かれおり、やわらかな感じであるが、玄関周りは殺風景である。また、初めての来訪者には玄関が分かりにくい。	○	プランターを置き、花を植え明るい環境を作りたいと思っている。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じさせる花が生けられている。また茶碗を洗う音、御飯支度の臭い等五感を意識的に採り入れやすい造りとなっている。飾りつけは暖かみのある手作りのものを飾っている。	○	職員の口調や語調に気をつけ不快な思いをさせないように気をつける。また、飾りつけが幼稚であったり、自宅では飾ることのない装飾品をかざることのないようにしたい。「家」を意識した装飾に心掛けたい。
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや時には談話室に行き、気の合う利用者同士、おしゃべりを楽しんでいる。また、トラブルのある入居者には、さりげなくテーブルの配置を替え距離をとり、精神的苦痛の軽減が図れるようにしている。	○	和室の環境を上手いかしきれていない気がする。今後、皆で話し合い上手く活用をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	使い慣れた物を持参して頂くようしているが、 利用者によりまちまちである。また、片づけにつ いては、本人の生活癖を考慮し声掛けをし、場合 によっては一緒に行くようにしている。	○	入居者がもっと「自分の部屋」と思えるような生 活館のある居室と一緒に作っていきたく思っ ている。
81	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	温湿度計を設置し、冬期間は床暖房による乾燥を 考慮し加湿器を使用している。	○	加湿器の調整が難しく健康面や衛生面において課 題を感じている。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	手すりを設置しバリアフリーのつくりである。身 体機能の低下を防ぐため過度な福祉用具の使用を 避け、なるべく自力にて生活が送れるよう支援し ている。	○	背もたれのないソファがあるが見守りや声掛 け、レイアウトを工夫し対応していきたい。
83	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	スタッフの声掛けで混乱を招かないよう、生活環 境を安易に替えないように気をつけている。	○	入居者の失敗を責めず、否定せず、混乱したとき は受け止め、共感をし解決策と一緒に考える。
84	○建物の活用  建物を利用者が楽しんだり、活動でき るよう活かしている	長い廊下を利用し歩行訓練を行ったり、談話室に 設置されたソファで新聞や雑誌等を読まれている。	○	喫茶コーナーを設け、楽しみをもっと見出せるよ うな環境の工夫をしたい。また、屋外での楽しみ も見出せるよう、花などの栽培にも取り組んでい ければと思っている。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

特に力を入れているものはないが、当たり前なのが当たり前ができるスタッフ、入居者が当たり前で普通の生活が送れることを目指しています。